

わたしたちの北海道を開いた人々

4年 社会科

I 実践の目指しているもの

本単元は、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を通して、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることを目指している。今回教材化した先人は、島義勇をはじめとする札幌を切り拓いて194万人都市の基礎を築き、ひいては北海道の発展に寄与した人々である。

島義勇は、明治初期、未開の札幌に開拓使の開拓判官として訪れた人物である。在任期間わずか3か月の間に、札幌本府の位置を定め、札幌のまちのランドデザインを描くなど大きな功績を残した。その後の開拓使が島の計画を引き継ぎ、札幌のまちの礎を築いていった。1886年、札幌に北海道庁の本庁が設置され、赤れんが庁舎は北海道の開発の拠点となった。

島義勇をはじめとする先人達が、「開拓精神」をもって札幌のまちを切り拓いていった歴史を学ぶことは、未来を切り拓く札幌の子どもたちにとって価値あることだと考える。

II 研究の内容

1 単元名

<第6単元>きょう土の発展につくす <小単元2>わたしたちの北海道を開いた人々

2 単元の目標

島義勇をはじめとする先人達が札幌のまちを開いた頃のことについて調べ、さまざまな困難があったことやそれを乗り越えようとしたことについて考えるとともに、それが札幌の礎を築き、後の北海道の発展に影響を与えたことを理解し、札幌や北海道の歴史に関心をもつ。

3 単元の指導計画（8時間扱い）

時	目 標
1	未開の地・札幌の想像図と札幌市役所ロビーに置かれている島義勇像、島義勇が「北海道開拓の父」と呼ばれていることなどから単元の学習問題を設定し、学習計画を立てる。 <単元の学習問題>島義勇は札幌や北海道にどのような業績を残したのだろうか
2	佐賀で生まれた島義勇は、どうして開拓判官として札幌に来たのだろうか 島義勇が初代開拓判官として札幌に来た理由について「北海道開拓が必要だった時代背景」と「北海道に縁のあった島の生い立ち」という観点で調べ、年表にまとめる。
3	島義勇は、誰とどのようにして札幌のまちを開いたのだろうか 島義勇が札幌のまちを開いた様子について、人や物資に着目して調べるとともに、島の描いた札幌の街の設計図「石狩国本府指図」が現在に受け継がれていることに気付く。
4	島義勇たちは、どのような苦勞をして札幌のまちを開いたのだろうか 島義勇が札幌のまちを開いた様子について、寒さや食糧・物資不足を乗り越えようとした知恵や意志などに注目して調べ、そのような島をみんなが慕っていたことを理解する。
5	【本時】 島義勇は、どうして周りの村に農民の男女を移住させようとしたのだろうか
6・7	島義勇が去ったあと、誰がどのようにして札幌のまちづくりを続けたのだろうか 島義勇が去ったあとの札幌のまちづくりの様子について調べ、島の計画が引き継がれ、その後札幌に設置された道庁が北海道開発の拠点となったことを理解する。また、単元の学習問題を振り返り、島が「北海道開拓の父」と呼ばれている理由について考える。
8	学習したことを『五州第一の都（世界一の都）』を目指した島義勇との対話』にまとめ、発表し合う。

Ⅲ 本時について

(1) 本時の目標

島義勇が農民を募集し周りの村に移住させようとしたことから、食糧や物資の面で札幌のまちづくりを支えようとした意図について考え、計画はその後の札幌のまちづくりに引き継がれたことを理解する。

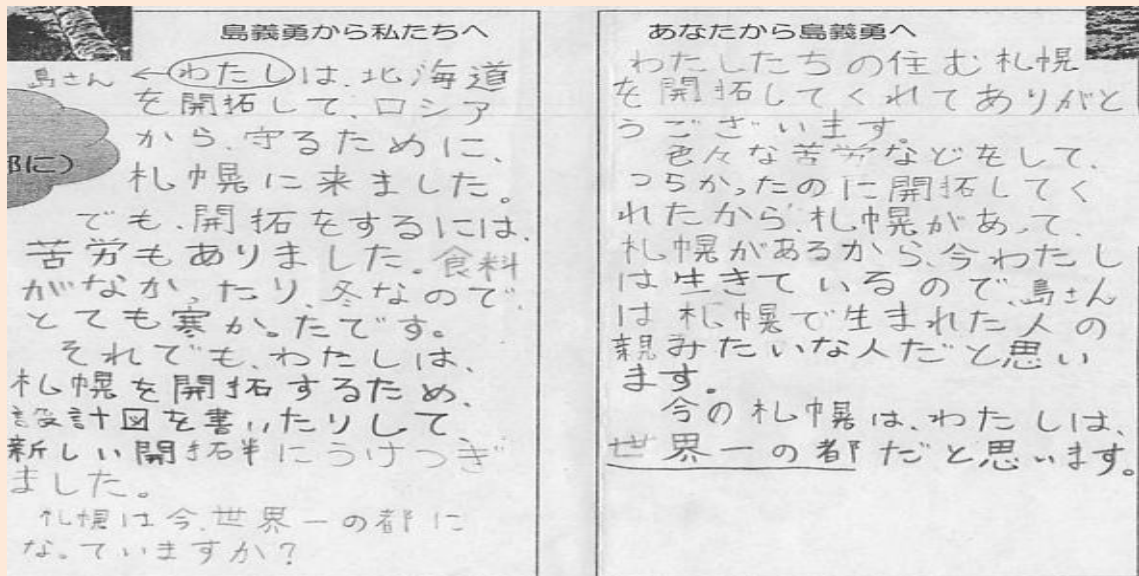
(2) 本時の展開 (5/9)

子どもの意識の流れと学習活動	教師の具体的な手立て
<p data-bbox="175 526 1069 660"><前時まで> 「石狩国本府指図」に従い、誰がどのようにして札幌のまちをひらいていったかについて学んでいる。また、寒さや食糧・物資不足などの困難な状況について学んでいる。</p> <p data-bbox="167 667 933 739">○島義勇が本州からの移民を募集した事実を伝える。 「() を 300 人ほど移住させてください」</p> <p data-bbox="167 779 798 813">○島義勇の移民募集の資料を提示して問いを生む。</p> <div data-bbox="167 824 1093 974" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p data-bbox="175 840 454 952">きっと・・・ ・大工をよんだのでは ・本府近くだと思う</p> <p data-bbox="502 851 790 952" style="text-align: center;">→ ・大工でなく農民？ ・男だけでなく女も？ ・本府でなく周りに？</p> <p data-bbox="821 817 1085 963" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><島の移民募集> 農民の男女 300 人を 本府の周りの村に移 住させてください。</p> </div> <div data-bbox="231 996 1037 1120" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>島義勇は、どうして周りの村に農民の男女を移住させようとしたのだろうか。</p> </div> <p data-bbox="167 1137 566 1171">○島義勇の意図について考える。</p> <div data-bbox="175 1182 1085 1646" style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="183 1187 582 1422" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">周りの村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食糧を生産して本府へ送る ・本府で働く人を生み育てる ・村自体も大きくする </div> <div data-bbox="590 1198 678 1388" style="text-align: center; font-size: 2em;">→</div> <div data-bbox="678 1187 1077 1444" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">札幌本府</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心として発展させる ・将来はもっと人が増える <p style="text-align: center;">(明治3) 500 人 → (明治20) 13584 人</p> </div> </div> <div data-bbox="183 1444 614 1635" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>円山村 <様々な農産物、家畜など> (明治3) 90 人 → (明治20) 293 人 丘珠村 <雑穀類、玉ねぎなど> (明治3) 88 人 → (明治20) 284 人 苗穂村 <ビール・ワイン工場> (明治3) 120 人 → (明治20) 602 人</p> </div> <div data-bbox="654 1478 1077 1635" style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>島義勇は、周りの村から食糧や人を送って札幌本府を支え、発展させようとした。</p> </div> </div> <p data-bbox="167 1691 933 1724">○島義勇が札幌を去った後の札幌について資料を基に考える。</p> <div data-bbox="191 1736 1069 1960" style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="199 1736 383 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">明治</div> <div data-bbox="391 1736 574 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">大正</div> <div data-bbox="582 1736 766 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">昭和</div> <div data-bbox="774 1736 1061 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">現在</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>→</p> </div> <div data-bbox="279 1870 981 1948" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌のまちはどんどん大きくなっていった。 ・周りの村は地名や産業など、現在にも続いている。 </div> </div> <p data-bbox="167 1971 1093 2049">○「島義勇が去ったあと、誰がどのようにして札幌のまちづくりを進めたのだろうか」という次時の問いをもつ。</p>	<p data-bbox="1133 470 1412 504">教師の具体的な手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1133 817 1428 1030">・ 予想したあと、島義勇の移民募集の資料を提示し、「職業」「性別」「移住の場所」に着目して問いを生む。 <li data-bbox="1133 1153 1428 1377">・ 既習の「食糧・物資不足」と「農民による食糧生産」を関連付けることで、島の意図に気付くようにする。 <li data-bbox="1133 1422 1428 1646">・ 明治3年と明治20年の人口を提示し比較することで、島義勇の計画通りになったことを捉えさせる。 <li data-bbox="1133 1691 1428 1982">・ 地図を使いながら、その後に札幌のまち全体が大きくなっていったこと、当時作られた周りの村が現在にも続いていることに気付くようにする。

IV 実践のポイント

【成果】

- 学習後の以下の子どもの姿から、この学習の価値は高いと考える。
 - ・学校の外に追究を広げる子ども。
 - 「北海道神宮に連れて行ってもらった」「円山公園で岩村通俊の銅像の写真を撮ってきた」
 - 「黒田清隆とケプロンの銅像を大通公園で見つけた」など、休日にも追究する子ども。
 - ・「単元のまとめ～島義勇との対話」より、先人達の思いを捉え札幌に誇りをもつ子ども。



- この学習で「札幌・北海道開発の出発点」を捉えることができ、「地域の歴史」と関連付けることで、地域が開拓された理由など自分の住む地域に対する理解を一層深められた。
- 札幌・北海道開発の歴史を学んだことで、「道庁赤れんが」「クラーク像」「屯田兵村兵屋跡」のように、子どもがこれまで何気なく見ていた「札幌ならではの歴史的なもの」に対する見方や考え方を変わるきっかけとなった。
- 札幌を開いた先人について島義勇を中心にまとめたテキスト「きょう土の発展につくす～札幌のまちをひらいた人々から」を活用することで、効果的に学習を進められた。

【課題】

- 子どもが主体的に学習を進めていくためには、単元を貫く学習問題を設定したあとの「予想→学習計画」が重要。しかし、学習のまとめ・振り返りのために多少幅をもたせた「島義勇が残した業績は？」という学習問題は予想を立てるには難しい。「未開の地・札幌をどのように開いていったのか」のように、より具体化した学習問題に置き換えて予想させる必要がある。
- 本時の学習は周りの村と本府との関係を捉えることをねらいとしたが、それを裏付ける具体的な文献が見付からなかった。そこで、既習の「食糧・物資不足」と「農民の男女」「農産物」から、周りの村が本府の発展を支えたことを推測し、その後の札幌の発展で検証するという学習展開にした。より実感的に捉えるために、「周りの村」と「本府」との関係がよく分かる資料が必要である。
- 自作のテキスト「きょう土の発展につくす～札幌のまちをひらいた人々」を「質」「量」「使いやすさ」などの観点から再検討し、改善していく必要がある。